

氏名	森 崎 太
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博乙第 2036 号
学位授与の日付	平成元年 9 月 30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	Effect of 15-Deoxyspergualin on Class II Antigen Expression on Hepatic Sinusoidal Lining Cells and on Infiltration of Mononuclear Cells in Swine Liver Transplantation (ブタ肝移植における肝類洞壁細胞のクラス II 抗原の表現および単核球浸潤に及ぼす 15-deoxyspergualin の効果)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 寺本 滋 教授 赤木忠厚

学位論文内容の要旨

15-deoxyspergualin (DSG) の免疫抑制効果を検討する為に、ブタ肝移植モデルを用い、その移植片における組織学的拒絶反応の程度および肝類洞壁細胞表面のクラス II 抗原陽性率から DSG の免疫抑制効果を検討した。Dulock Jersey から Large White に同所性肝移植を行なった。実験群は移植を行わない正常肝 (GO)、免疫抑制剤を使わないコントロール群 (G1)、DSG 0.5mg/kg/day を移植後 7 日間静注し、その後 0.3mg/kg/day に減量する群 (G2)、DSG 0.8mg/kg/day を術後 10 日間のみ静注する群 (G3) の 4 群とした。消化器症状 (食思不振、下痢) は DSG 投与群にやや多かった。血液生化学的検査では各群間に有意の差は認めなかった。術後 1、2 週における組織学的拒絶反応をみると、G1 では中等度の拒絶反応と判定された例が多かったが、G2、G3 では全般的に細胞浸潤も少なく、拒絶反応の抑制効果が認められた。Counterflow 遠心法にて分離された術後 1、2 週の肝類洞内皮細胞およびクッパー細胞における OKIa1 陽性率は、類洞内皮細胞において G2、G3 で有意の低下を認め、抗原提示レベルで DSG が効果をあらわしていると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究はブタ肝移植における肝類洞壁細胞のクラス II 抗原の表現および免疫抑制効果を

15-deoxyspergualin (DSG) を用いて検討したもので、移植システムとしては Dulock Jersey から Large White に同所性肝移植を行っている。その結果、DSG の拒絶反応の抑制効果と肝類洞内皮細胞およびクッパー細胞における OKIa 1 表現提示抑制効果を認めている。これら知見は非常に重要なものであり、よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。